

中世山城の遺跡七尾城

⇒ [お主サイトトップページ](#)

歴史が眠る芸州廿日市には、かつて中世の山城・七尾城があった。

広島藩の地誌「芸藩通誌（げいはんつうし）」を編纂するために作成された一つで、「国郡志御編集ニ付下調べ書出帳」がある。

文政（ぶんせい）2年(1819) 卯 九月 佐伯郡「国郡志御用ニ付郡辻書出帳」に、「佐伯郡七ツ尾、佐方村岩戸尾、同村篠尾、廿日市桜尾、下平良 宮内村藤掛尾、同村越峠尾、上平良宮 内村谷宗尾、同村宗高尾（以上古来方当郡七ツ尾ト申伝へ）」とある。

(参考：廿日市町史 資料編Ⅱ 151～152 頁)

文政 8年(1825)「藝藩通志」

「桜尾 廿日市にあり、谷宗尾、宗高尾、藤掛尾、越峠尾 並びに宮内、平良二村の界にあり、岩戸尾、篠尾 並びに佐方村にあり、上の桜尾より、此の篠尾までの七所を七尾城と称す」



岩戸尾城 iwatojo

廿日市と広島市佐伯区の境にあった岩戸尾城は、後世の畑地利用のため段上に削平されており城の遺構確認が困難である。



桜尾城 sakurajo

宮島街道・西国両街道に挟まれた標高31mの城山にあったが昭和42年頃から埋め立て用採取場となり、削平され、現在は桂公園となって市民の憩いの広場になっている。



篠尾城 sasaojo

天満宮と正覚院がある天神山の峰続きにある標高297mの篠尾山にあった。北側の竹尾山には嶽尾城があった。



藤掛尾城 fujikakeojo

新宮神社の南標高387mの藤掛山にあり道路計画と藤掛ハイツ造成の為に削平された。当時は尾根の最先端部は海に突き出した絶壁の要害であった。



越峠尾城 koitoojo

JR山陽本線峰高陸橋東南部に位置。本城は下平良と宮内を境とする標高447mの尾根上にあったが、昭和50年頃削平され、現藤掛ハイツとなった。

谷宗尾城 tanimuneojo

平良と宮内を境とする尾根上の標高717mの谷宗山にあったが削平され旧状しれず。現上水道貯水タンクの位置。

宗高尾城 munetakaajo

標高937mの宗高山、現在の陽光台1丁目、市立平良小学校北側の陽光台第1公園にあった。